I'm not a robot

内服薬であるフラジールは、1日2～4回の服用によって感染症の治療を行うお薬です。 性感染症であるトリコモナス症や、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ菌の除菌のほか、さまざまな原虫や細菌の治療に有効であり医療現場で利用されています。 この記事では、フラジールのお薬の効果と有効性がある疾患についてご説明します。 目次1 フラジールの効果1.1 フラジールの特徴1.2 フラジールの適応疾患2 まとめ フラジールは、メトロニダゾールを有効成分に含む抗原虫薬というお薬です。 メトロニダゾールは原虫が引き起こす感染症に対して有効性があることが報告されています。 原虫とはミドリムシやゾウリムシのような単細胞生物のことであり、トリコモナス症やアメーバ赤痢のような病原性原虫によって引き起こされる感染症に対してフラジールは有効性があります。 またフラジールは、ヘリコバクター・ピロリ感染症や感染性腸炎などの細菌が引き起こす感染症にも効果を発揮するお薬であり、さまざまな幅広い感染症に有効です。 ここでは、フラジールの特徴と治療可能な疾患をご紹介します。 内服薬であるフラジールは、有効成分が原虫や細菌内に取り込まれることで治療効果が得られるお薬です。 フラジールの有効成分であるメトロニダゾールは、化学反応を起こすことで原虫や細菌のDNAを切断する効果があり優れた抗菌作用があります。 DNAは生物の遺伝情報を含むため、切断された原虫や細菌にとって致命傷を与えます。 また副作用が現れにくく耐性菌ができにくいことも報告されており、医療現場で広く利用されています。 しかしながら、服用に当たって注意が必要な点もあります。 第一に脳や脊髄に異常がある人や妊娠3か月以内の女性では、副作用の観点から原則的に服用することができません。 またすでに他のお薬を服用している人や生活習慣によっては、フラジールと相互作用をきたす可能性があるため併用に注意が必要な場合があります。 血液を固まりにくくするワルファリンの内服や飲酒などがその一例であり、意図しない副作用を引き起こす原因となる場合があります。*1 参照URL *1 ジェネリック医薬品一覧「フラジール内服錠剤250mg 医薬品インタビューフォーム」(PDFが開きます) フラジールはサノフィが開発した抗原虫・抗菌薬です。トリコモナス原虫のDNAを切断して殺虫殺菌作用を示し、トリコモナス膣炎だけでなく尿道の症状も併せて改善します。1箱：1,646円～ フラジールは原虫や細菌による感染症に効果を発揮するお薬です。 中でもフラジールはお薬への耐性化が深刻になっている嫌気性菌感染症に優れた効果を発揮するお薬であることがわかっており、主に以下のような嫌気性の細菌に有効であることが報告されています。*2 有効な原虫や細菌 ペプトストレプトコッカス属の一部 バクテロイデス属 プレボテラ属 ポルフィロモナス属 フソバクテリウム属 クロストリジウム属 またフラジールは原虫や細菌を原因とするさまざまな感染症に有効であり、主に以下のような感染症の治療に効果を発揮することが報告されています。*2 適応する症状 トリコモナス症 嫌気性菌感染症（深在性皮膚感染症や骨盤内炎症性疾患、腹膜炎など） 感染性腸炎(偽膜性腸炎を含む) 細菌性膣炎 ヘリコバクター・ピロリ感染症 アメーバ赤痢 参照URL *2 フラジール内服錠250mg 添付文書(PDFが開きます) フラジールは原虫や細菌が引き起こすさまざまな感染症に高い有効性があるお薬です。 基礎疾患があってすでに他の服用している人や、お薬を飲酒のような生活習慣がある場合には、フラジールとの相互作用によって副作用が生じる可能性があるため、服用の際にはあらかじめ確認しましょう。 2.1　既往に本剤の成分に対する過敏症を起こした患者2.2　脳、脊髄に器質的疾患のある患者（脳膿瘍の患者を除く）［中枢神経系症状があらわれることがある。］［7.1、9.1.2、11.1.2参照］2.3　妊娠3ヵ月以内の女性（有益性が危険性を上回ると判断される疾患の場合は除く）［9.5.1参照］ ＜感染性腸炎（偽膜性大腸炎を含む）＞ 5.1　「抗微生物薬適正使用の手引き」1)を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。 ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 5.2　プロトンポンプインヒビター（ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム、エソメプラゾール又はボノプラザン）、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシン併用による除菌治療が不成功だった患者に適用すること。5.3　進行期胃MALTリンパ腫に対するヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は確立していない。5.4　特発性血小板減少性紫斑病に対しては、ガイドライン等を参照し、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切と判断される症例にのみ除菌治療を行うこと。5.5　早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃以外には、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制に対する有効性は確立していない。5.6　ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に用いる場合は、ヘリコバクター・ピロリが陽性であること及び内視鏡検査によりヘリコバクター・ピロリ感染胃炎であることを確認すること。 ＜トリコモナス症（膣トリコモナスによる感染症）＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして、1クールとして、1回250mgを1日2回、10日間経口投与する。 ＜嫌気性菌感染症＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回500mgを1日3回又は4回経口投与する。 ＜感染性腸炎＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回250mgを1日4回又は1回500mgを1日3回、10～14日間経口投与する。 ＜細菌性膣症＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして、1回250mgを1日3回又は1回500mgを1日2回7日間経口投与する。 ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ アモキシシリン水和物、クラリスロマイシン及びプロトンポンプインヒビター併用によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回250mg、アモキシシリン水和物として1回750mg（力価）及びプロトンポンプインヒビターの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。 ＜アメーバ赤痢＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回500mgを1日3回10日間経口投与する。なお、症状に応じて1回750mgを1日3回経口投与する。 ＜ランブル鞭毛虫感染症＞ 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回250mgを1日3回5～7日間経口投与する。 ＜効能共通＞ 7.1　末梢神経障害、中枢神経障害等の副作用があらわれることがあるので、特に10日を超えて本剤を投与する場合や1500mg/日以上の高用量投与時には、副作用の発現に十分注意すること。［2.2、9.1.2、11.1.1、11.1.2参照］ ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 7.2　プロトンポンプインヒビターは、以下のいずれか1剤を選択する。・ランソプラゾールとして1回30mg・オメプラゾールとして1回20mg・ラベプラゾールナトリウムとして1回10mg・エソメプラゾールとして1回20mg・ボノプラザンとして1回20mg ＜効能共通＞ 8.1　本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。8.2　白血球減少、好中球減少があらわれることがあるので、定期的に血液検査を実施するなど、患者の状態を十分に観察すること。［9.1.1、11.1.6参照］8.3　肝機能障害があらわれることがあるので、定期的に肝機能検査を実施するなど、患者の状態を十分に観察すること。［9.1.3、11.1.7参照］ ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 8.4　プロトンポンプインヒビター（ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム、エソメプラゾール又はボノプラザン）及びアモキシシリン水和物の電子添文に記載されている使用上の注意を必ず確認すること。 9.1.1　血液疾患のある患者 白血球減少、好中球減少があらわれることがある。［8.2、11.1.6参照］ 9.1.2　脳膿瘍の患者 中枢神経系症状があらわれることがある。［2.2、7.1、11.1.2参照］ 9.1.3　コケイン症候群の患者 重度の肝毒性又は急性肝不全が発現し死亡に至ることがある。［8.3、11.1.7参照］ 9.2.1　血液透析患者 本薬の注射剤において、メトロニダゾール500mgの単回点滴静注直後の血液透析により、投与量の約45%が除去されたとの報告がある2)。 9.5.1　妊娠3ヵ月以内の女性 投与しないこと。ただし有益性が危険性を上回ると判断される疾患の場合は除く。［2.3、16.3.2参照］ 9.5.2　妊娠3ヵ月を過ぎた女性 治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。［16.3.2参照］ 授乳しないことが望ましい。母乳中へ移行することが報告されている。［16.3.3参照］ アルコール腹部の疝痛、嘔吐、潮紅があらわれることがあるので、投与期間中は飲酒を避けること。本剤はアルコールの代謝過程においてアルデヒド脱水素酵素を阻害し、血中アセトアルデヒド濃度を上昇させる。 リトナビル含有製剤（内用液）ジスルフィラム－アルコール反応を起こすおそれがある。リトナビル含有製剤（内用液）はエタノールを含有するので本剤により血中アセトアルデヒド濃度を上昇させる。 ジスルフィラム精神症状（錯乱等）が出現することがある。機序は不明である。 ワルファリンワルファリンの抗凝血作用を増強し、出血等があらわれることがある。本剤はワルファリンの代謝を阻害し、その血中濃度を上昇させる。 リチウムリチウムの血中濃度が上昇し、リチウム中毒があらわれることがある。機序は不明である。 ブスルファンブスルファンの作用が増強されることがある。本剤はブスルファンの血中濃度を上昇させることがある。 5-フルオロウラシル5-フルオロウラシルの作用が増強される可能性がある。本剤は5-フルオロウラシルの血中濃度を上昇させることがある。 シクロスポリンシクロスポリンの作用が増強される可能性がある。本剤はシクロスポリンの血中濃度を上昇させることがある。 フェノバルビタール本剤の作用が減弱する可能性がある。フェノバルビタールは本剤の代謝酵素を誘導し、その血中濃度を低下させることがある。 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。 ＜効能共通＞ 11.1.1　末梢神経障害（頻度不明） 四肢のしびれ、異常感等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。［7.1参照］ 11.1.2　中枢神経障害（頻度不明） 脳症、痙攣、錯乱、幻覚、小脳失調等があらわれることがある。ふらつき、歩行障害、意識障害、構語障害、四肢のしびれ等の初期症状があらわれ、本剤による脳症が疑われた場合には、本剤の投与を中止すること。［2.2、7.1、9.1.2参照］ 11.1.3　無菌性髄膜炎（頻度不明） 項部硬直、発熱、頭痛、悪心・嘔吐あるいは意識混濁等を伴う無菌性髄膜炎があらわれることがある。 11.1.4　中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）（いずれも頻度不明）11.1.5　急性膵炎（頻度不明） 腹痛、背部痛、悪心・嘔吐、血清アミラーゼ値の上昇等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 11.1.6　白血球減少、好中球減少（いずれも頻度不明）［8.2、9.1.1参照］11.1.7　肝機能障害（頻度不明）［8.3、9.1.3参照］11.1.8　QT延長、心室頻拍（Torsade de pointesを含む）（いずれも頻度不明） ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 11.1.9　出血性大腸炎（頻度不明） 腹痛、血便、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。＜トリコモナス症（膣トリコモナスによる感染症）、嫌気性菌感染症、感染性腸炎、細菌性膣症、アメーバ赤痢、ランブル鞭毛虫感染症＞　頻度不明 過敏症発疹 消化器舌苔、食欲不振、悪心、胃不快感、下痢、腹痛、味覚異常 肝臓AST上昇、ALT上昇、総ビリルビン上昇、Al-P上昇、LDH上昇、γ-GTP上昇 生殖器Candida albicansの出現 その他暗赤色尿、発熱 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞　頻度不明 過敏症発疹、そう痒感 血液好塩基球増多 消化器下痢、胸やけ、悪心、上腹部痛、味覚異常、口腔アフタ、舌炎、鼓腸、黒色便 精神神経系うつ病、頭痛、浮動性めまい、不安定感 その他眼精疲労、疲労、しびれ感 ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 12.1　ヘリコバクター・ピロリの除菌判定上の注意 ランソプラゾール等のプロトンポンプインヒビターやアモキシシリン水和物及びメトロニダゾールの服用中や投与終了直後では、13C-尿素呼気試験の判定結果が偽陰性になる可能性があるため、13C-尿素呼気試験による除菌判定を行う場合には、これらの薬剤の投与終了後4週間以降の時点で実施することが望ましい。 14.1　薬剤交付時の注意 PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。 マウスに長期経口投与した場合、肺腫瘍が3)4)、またラットでは乳房腫瘍の発生が報告されているが5)、ハムスターの生涯投与試験では腫瘍はみられていないとの報告がある4)。 健康女性5例にメトロニダゾール内服錠250mgを単回経口投与したときの血中濃度を図16-1に示す。血中濃度は2時間後に最高値を示した6)。図16-1　経口投与時の血中濃度 16.3.1　膣内への移行 婦人科入院患者1群3～5例にメトロニダゾール内服錠250mgを単回経口投与した場合、症例によって多少の変動を認めたが、4時間後まで十分な抗原虫濃度を示した6)。 16.3.2　胎児への移行 分娩開始初期からメトロニダゾール内服錠200mg注を3時間ごとに投与して、母子の血中濃度を測定したとき、胎盤関門を通過して胎児に移行することが認められた7)（外国人データ）。［9.5.1、9.5.2参照］ 16.3.3　母乳中への移行 平均年齢22.5歳の母親及び生後5日の新生児10例を選び、母親にメトロニダゾール内服錠200mg注を単回経口投与し、4時間ごとに授乳して母乳中及び新生児の血中への移行を測定した。母乳中の平均濃度は投与後4時間目では3.4μg/mL、8時間目では2.2μg/mL、12時間目では1.3μg/mLで母親の血中と同程度に移行したが、新生児の血中濃度は検出限界以下～0.4μg/mLと極めて微量であった8)（測定法：polarography）（外国人データ）。［9.6参照］ 16.3.4　血漿蛋白結合率 平衡透析法にて測定された血漿蛋白結合率は1μg/mLの濃度では8.1%、10μg/mLの濃度では11.2%であった9)（外国人データ）。 主として肝臓で代謝される。尿中に排泄されたニトロ基を含む代謝物中、未変化のメトロニダゾール及びそのグルクロン酸抱合体が30～40%を占め、1-（2-ヒドロキシエチル）-2-ヒドロキシメチル-5-ニトロイミダゾール（ヒドロキシメトロニダゾール）及びそのグルクロン酸抱合体が主代謝物で40～50%を占めた10)（外国人データ）。主代謝物であるヒドロキシメトロニダゾールへの代謝にはCYP2A6が関与している11)。 健康女性3例にメトロニダゾール内服錠250mgを単回経口投与したときの48時間までの尿中排泄率は、生物学的測定法では9.2%であった6)。注）本剤の承認された用量の1回服用最小量は250mgである。 ＜胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症＞ 17.1.1　国内臨床成績 プロトンポンプインヒビター／アモキシシリン水和物／メトロニダゾール併用療法（PPI/AM療法）は承認の用法・用量（プロトンポンプインヒビター常用量＋アモキシシリン水和物750mg＋メトロニダゾール250mg1日2回、7日間）において、81.7～100%の除菌効果※が得られる治療法であることが報告されている。※：評価基準等が異なる複数の臨床研究成績12)13)14)に基づき記載 抗原虫及び抗菌作用 メトロニダゾールは原虫又は菌体内の酸化還元系によって還元を受け、ニトロソ化合物（R-NO）に変化する。このR-NOが抗原虫作用及び抗菌作用を示す。また、反応の途中で生成したヒドロキシラジカルがDNAを切断し、DNAらせん構造の不安定化を招く15)16)17)。 Trichomonas vaginalisに対し、抗原虫作用を示す18)。 一般的名称 メトロニダゾール 一般的名称（欧名） Metronidazole 化学名 2-(2-Methyl-5-nitro-1H-imidazol-1-yl)ethanol 分子式 $C_6H_9N_3O_3$ 分子量 171.15 融点 159～163℃ 物理化学的性状 白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。酢酸（100）に溶けやすく、エタノール（99.5）又はアセトンにやや溶けにくく、水に溶けにくい。希塩酸に溶ける。光によって黄褐色になる。 分配係数 0.81［pH7.4、1-オクタノール／緩衝液］ KEGG DRUG 厚生労働省健康局結核感染症課編：抗微生物薬適正使用の手引き Somogyi,A.et al., Eur.J.Clin.Pharmacol., 25, 683-687, (1983) »PubMed »DOI Rustia,M.et al., J.Natl.Cancer Inst., 48, 721-729, (1972) »PubMed Roe,F.J.C.et al., Surgery., 93, 158-164, (1983) »PubMed Rustia,M.et al., J.Natl.Cancer Inst., 63, 863-868, (1979) »PubMed »DOI 青河寛次ほか, 産婦人科の世界, 23, 183-186, (1971) Gray,M.S., J.Obstet.Gynaecol.Br.Commonw., 68, 723-729, (1961) Gray,M.S.et al., Br.J.Vener.Dis., 37, 278-279, (1961) »PubMed »DOI Schwartz,D.E.et al., Chemotherapy., 22, 19-29, (1976) »PubMed Stambaugh,J.E.et al., J.Pharmacol.Exp.Ther., 161, 373-381, (1968) »PubMed Pearce,R.E.et al., Drug Metab.Dispos., 41, 1686-1694, (2013) »PubMed Shimoyama,T.et al., J.Gastroenterol., 39, 927-930, (2004) »PubMed 沖本忠義ほか, 第9回日本ヘリコバクター学会学術抄録集, p46, (2003), (松本) Isomoto,H.et al., Aliment.Pharmacol.Ther., 18, 101-107, (2003) »PubMed »DOI Osato,MS., Curr.Pharm.Des., 6, 1545-1555, (2000) »PubMed »DOI 山本達男ほか, 日本臨牀, 63, 376-381, (2005) Upcroft,P.et al., Clin.Microbiol.Rev., 14, 150-164, (2001) »PubMed »DOI Jennison,R.F.et al., J.Clin.Pathol., 14, 431-435, (1961) »PubMed »DOI 文献請求先 製品情報問い合わせ先 シオノギファーマ株式会社 大阪府摂津市三島2丁目5番1号 塩野義製薬株式会社 大阪市中央区道修町3丁目1番8号 こちらの記事はフィットクリニック服部圭太院長が監修しています。 このページでは、トリコモナスの治療に用いるフラジール内服薬について詳しく解説しています。 効果や副作用をはじめ、飲み方、服用上の注意点についても触れているので、トリコモナスへの感染の疑いがある方は治療の参考にしてください。 トリコモナスの症状や原因について 性病治療薬の詳細 フラジール内服薬とは？ フラジール内服薬の概要 性病名 トリコモナス 薬品名 フラジール内服薬　250㎎ 処方数 20錠 治療期間 10日 用法・用量 1回250mgを1日2回、10日間経口投与する 副作用 末梢神経障害 、 四肢のしびれ 、 四肢異常感 、 中枢神経障害 、 脳症 、 痙攣 、 錯乱 、 幻覚 、 小脳失調 、 ふらつき フラジール内服薬は、メトロニダゾールを有効成分とした「抗原虫薬」とも呼ばれるニトロイミダゾール系抗菌・抗原虫剤です。 細菌感染症に使用する他の抗菌薬とは異なり、寄生性の原虫や嫌気性菌（粘膜に存在する常在菌など）の異常増殖を抑える治療にも用いられます。 古くからトリコモナスの治療の第一選択薬とされ、膣にピンポイントで作用する膣錠もありますが、性器以外への感染リスクも考慮し全身に作用する内服薬を選ぶのが一般的です。 なお、フラジールの内服薬や膣錠は、「医療用医薬品」に分類されています。 医師の診断に基づいた処方が必要となる処方箋薬のため、薬局やドラッグストアなどで市販薬としての購入はできません。 トリコモナスの疑わしい症状が出ている場合には、まずは医療機関にご相談ください。 トリコモナスの薬について 参考サイト フラジール内服錠250mg 細菌性膣症にも有効 フラジール内服薬は、2012年に「細菌性膣症」への適応が認められています。 細菌性膣症とは、膣内にいる常在菌のバランスが崩れて異常繁殖することで起こる膣感染症です。 トリコモナスや性器カンジダ症と似た症状が見られ、おりものの異常や膣の炎症、かゆみなどが起こります。 細菌性膣炎・膣トリコモナス・性器カンジダの特徴 細菌性膣炎 膣トリコモナス 性器カンジダ症 原因 嫌気性菌・好気性菌 トリコモナス原虫 真菌（カビの一種） おりものの性状 カッテージチーズ状・ヨーグルト状 膿性の泡沫状 灰色のさらさらした状態 アミン臭（魚が腐ったような臭い） あり 時にあり なし また、細菌性膣症はトリコモナスと合併する場合もあるのでご注意ください。 おりものが黄色い原因と対策方法 フラジール内服薬のトリコモナスへの効果 フラジール内服薬は、トリコモナスの原因である原虫を駆除する効果があります。 フラジール内服薬の作用 フラジール内服薬の服用 ↓ 有効成分メトロニダゾールが原虫の中に取り込まれる ↓ タンパク質の合成を阻害、DNAの切断が行われる ↓ 複製・細胞分裂が妨げられ、感染部位で繁殖した原虫が駆除される 一般的な抗菌薬のように細菌細胞を壊すのではなく、フラジール内服薬は原虫の遺伝子に働きかけることで殺菌作用を示します。 なお、人にもDNA（遺伝子情報）がありますが、殺菌作用の影響を受けるのは原虫に対してのみ（選択毒性）です。 トリコモナスの特徴 出典：CDC Public Health Image Library トリコモナスは、主に性行為などでトリコモナス原虫に感染して起こる性感染症です。 正式な病名は膣トリコモナス症です。 原虫が感染源のため、性行為の経験がない方や幼児が日常生活（下着、タオル、検診台、便器、浴槽など）で感染するケースもあります。 必ずしも性感染症とは言い切れない一面もあるため、感染時には他の方に感染させないよう十分ご注意ください。 またその他の特徴として、男女で症状の現れ方に差があります。 ■男性 症状：尿道炎（排尿時のかゆみや痛み） 無症状なことが多く、症状があっても一過性です。 尿道に感染しているだけであれば、排尿時に原虫が洗い流されることもあります。 ただし、前立腺にまで感染が広がってしまうと、自己感染を繰り返す難治例に発展することもあるので症状を問わず治療が必要になります。 ■女性 症状：膣炎、膀胱炎、おりものの変化（異臭など）、性交時の痛み おおむね20～50%は無症状となり、その3分の1は6ヶ月以内に症状が現れます。 また重症度もさまざまで、人によっては骨盤内（卵管、卵巣など）にまで感染が広がることもあります。 放置すると不妊の原因になることや、妊娠中は流産や早産を招く危険性もあるので早期発見・治療が大切です。 男女ともにフラジール内服薬により治療できるため、医師の指示に従い服用を行ってください。 フラジール内服薬の服用方法 フラジール内服薬の服用方法は、次のとおりです。 ＜フラジールの服用方法＞ 用量：1回250mg 服用回数：1日2回 服用日数：10日間 服用するタイミングですが、特に指定はありません。 食前・中・後を問わず服用できますが、飲み忘れ防止のため決まった時間の服用を心がけてください。 なお、服用日数は10日間を1クールとし、追加の治療が必要であれば1週間空けた後に同じ服用方法で治療を再開します。 10日間の服用で90～95%の方が治りますが、治癒と診断するためには治療後2週間以上を空けてから再検査が必要です。 ＜フラジール内服薬の治療期間＞ 10日（服用期間）＋2週間以上空けて再検査＝約1ヶ月 トリコモナスの治療は約1ヶ月かかるので、その間は性行為やそれに類似するような行為はお控えください。 フラジール内服薬の副作用 フラジール内服薬の副作用として起こりやすいのが、次のような症状です。 フラジール内服薬の主な副作用 舌苔 食欲不振 胃腸障害 悪心・吐き気 胃部不快感 軟便 など 舌苔（ぜったい）とは、舌の表面に付着する白いコケ状のものです。 これは薬の影響で、口の中にいる常在菌のバランスが変わるのが原因で発生します。 また、その他の症状として胃腸への症状が見られますが、軽い症状で済む場合が多く、大きな心配はありません。 上記以外にも気になる症状がある際は、医療機関にご相談ください。 稀に現れる副作用 フラジール内服薬を服用中、重い副作用が生じることがあります。 特に服用期間が10日を超える場合や1500mg/日以上の高用量投与時には、以下の症状には十分にご注意ください。 フラジール内服薬の稀に現れる副作用 末梢神経障害 ⇨ 手足のしびれ、痛み、感覚のまひ など 中枢神経障害 ⇨ ふらつき、歩行障害、けいれん、意識障害、幻覚 など 無菌性髄膜炎 ⇨ 発熱、頭痛、吐き気・嘔吐 など 中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群 ⇨ 発熱、水ぶくれ、眼や口など粘膜のただれ、全身の発赤 など 急性膵炎 ⇨ 吐き気、急激な腹痛、背中が痛む など 白血球減少、好中球減少 ⇨ 発熱、のどの痛み、さむけ など 肝機能障害 ⇨ 倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる など QT延長、心室頻拍（トルサード・ド・ポアントを含む）⇨ めまい、動悸、気を失う、胸の不快感 など また重い副作用ではないものの、フラジール内服薬の作用により「膣カンジダ症」が誘発される場合があります。 これは菌交代現象と呼ばれ、成分が膣内にいる常在菌のバランスが変化するために起こると考えられています。 使用上の注意点 フラジール内服薬を使用する上で、いくつか注意点があります。 適切な治療を行うためにも、以下のことには注意してください。 ■医師に処方された分は飲み切る 飲み忘れや自己判断による服用中止は、症状のぶり返しや耐性菌を発生させる原因になります。 薬に耐性がついた菌が増えると十分な治療効果が得られず、治療を難しくする恐れがあります。 医師に処方された薬は必ず飲み切ってください。 ■特定の持病を抱えている方 血液疾患や腎・肝臓障害、脳腫瘍などの持病がある場合、有効成分の吸収量が低下する、副作用が出やすくなるなど、安全な治療ができないことがあります。 持病がある方は、診察の際に医師に申告するようにしてください。 ■アレルギーのある方 これまでにフラジールを服用して過敏症（アレルギーの症状）が出たことがある方は服用できません。 ■脳・脊髄に器質的疾患のある方 服用すると中枢神経症状が出る場合があります。 妊娠中の内服薬の使用は禁止 妊娠中（3ヶ月以内）または妊娠の可能性がある女性は、フラジール内服薬の使用が禁止されています。 成分が胎盤を通して胎児に移行するため、血液中に成分がほとんど移行しないことが確認されている膣錠により治療を行います。 ただ、最新の報告によると、以下の妊娠時期であれば内服薬の安全性が確立されています。 第2三半期：妊娠14週0日～27週6日 第3三半期：妊娠28週0日以降 そのため、妊娠3ヶ月以降では「治療するメリットがリスクを上回る」と医師が判断した場合にのみ内服薬による治療を行うこともあります。 妊娠中は、膣の自浄作用の低下により、よりトリコモナスに感染しやすくなるのでご注意ください。 併用禁忌・併用注意 フラジール内服薬といっしょに服用してはいけない併用禁忌薬はありませんが、飲み合わせに注意が必要な併用注意はあります。 併用によって効果が増強あるいは減弱する薬 ワルファリン ブスルファン 5-フルオロウラシル シクロスポリン フェノバルビタール 併用による症状が報告されている薬 アルコール リトナビル含有製剤（内用液） ジスルフィラム リチウム 併用禁忌や併用注意があると、安定した治療が行えなくなる場合や、薬によっては体調を崩す原因にもなります。 服用中だけでなく、フラジール内服薬を服用中に薬を追加する場合にも医師への申告が必要です。 治療中のアルコールは禁止 フラジールの服用中および服用後3日間は、アルコールの摂取は禁止です。 フラジールの有効成分メトロニダゾールは、アルコールを分解する酵素（アルデヒド脱水素酵素）の働きを阻害します。 つまり、治療期間中にアルコールを摂取すると、悪酔いの成分「アセトアルデヒド」の分解が遅れ、血液中に溜まることで以下の症状が現れます。 フラジール服用中のアルコール摂取による症状 悪心 頭痛 腹部の仙痛（キリキリとした痛み） 嘔吐 動悸 潮紅 フラジールの服用中および服用後3日、顔面潮紅、血圧降下、動悸、悪心・嘔吐、などの二日酔いに似た症状が出るのでご注意ください。 治療後は再検査で完治を確認する トリコモナスが完治したと判断するためには、フラジールの服用後に再検査を行い原虫が消えたか確認が必要です。 再検査のタイミングは男女により異なるため、治療後は以下の期間を目安に再検査を受けるようにしてください。 男性 女性 ⇨ 服用後2週間以上が経過 ⇨ 服用後2週間以上が経過した次回生理後 女性の場合は生理中に菌が増殖する恐れがあるため、次回の生理後に再検査を受けるのが望ましいです。 トリコモナスは、自覚症状が消えただけでは完治ではありません。 自己判断で治療を中止すると感染をぶり返すことや、わずかに残った原虫によりパートナーに感染させてしまうリスクもあります。 トリコモナス治療は、再検査で陰性が出るまでが治療であるとお考えください。 トリコモナスの検査について トリコモナスの検査キットについて トリコモナスの検査は、検査キットを購入すれば医療機関に通院せずに自宅でも行うことができます。 ※当院ではトリコモナスの検査はおこなっておりません。 STEP 02 検体の採取（男性：尿 / 女性：膣分泌物） 検査キットのみを販売しているサイトもありますが、感染の可能性がある場合そのまま治療が行えるオンライン診療に対応したクリニックがおすすめです。 オンライン診療であれば、フラジール内服薬の郵送も可能なため、検査～治療まで完結できます。 このページのまとめ 最後に、このページの重要なポイントをまとめておきましょう。 フラジール内服薬のまとめ フラジール内服薬はトリコモナス治療の第一選択薬 薬局やドラッグストアで市販薬として購入できない 治療期間は再検査を含めると1ヶ月前後かかる フラジール内服薬の服用中と服用後3日間は飲酒できない 妊娠中のトリコモナス治療はフラジール膣錠を使うのが一般的 検査キットを使えば自宅からでもトリコモナスの検査が可能 フラジール内服薬を使えば、通常1回の治療で90～95%の方はトリコモナスが完治します。 ただし、男女ともに自覚症状に乏しいので、医療機関に受診する機会を失う方も多くいます。 早期発見・治療に繋げるためにも、「いつもと違う」と感じた場合はすぐに医療機関にご相談ください。 よくある質問 Q フラジール内服薬は市販されていますか？ A フラジール内服薬は医師の診断に基づき処方される「処方箋薬」のため、ドラッグストアや薬局などで市販されていません。 検査によりトリコモナスへの感染の有無を確認するためにも、一度医療機関にご相談ください。 Q 治療中に性行為してもいいか？ A 治療中の性行為はお控えください。 薬を服用しても菌がすぐに消えることはありません。 さらに、菌の数が減っても感染力を失っていない可能性があります。 Q どんな性病に効果的か？ A フラジール内服薬は、トリコモナスや細菌性膣症などの治療に効果的です。 Q トリコモナスはフラジール内服薬で完治しますか？ A フラジール内服薬はトリコモナスの特効薬とされ、通常1回の治療で90～95%の方が完治します。 その他よくある質問はこちらをご確認ください 関連記事 関連記事 トリコモナスの詳細 トリコモナスって何？どんな症状が出る？原因は何？改善策はある？予防法も知りたい！このページではトリコモナスの基本情報を解説しているので、少しでも不安な方はぜひご確認ください。 関連記事 性病治療薬の詳細 「性病になったかもしれないのでまずは薬の情報を知っておきたい」「性病はどんな薬で治療するのか気になる」という方に向けて、性病の薬について解説します。フィットクリニックなら検査～薬の処方～再検査まで自宅で完結！ フラジール（メトロニダゾール）の作用機序：抗原虫薬 微生物によって病気を生じることがあります。例えば、消化性潰瘍を引き起こすピロリ菌は細菌ですし、性感染症として知られているトリコモナス症はトリコモナスという原虫によって起こります。 そこで、これら細菌や原虫による感染症を治療するために使用される薬としてメトロニダゾール（商品名：フラジール）があります。メトロニダゾールは抗原虫薬と呼ばれる種類の薬になります。　 メトロニダゾール（商品名：フラジール）の作用機序感染症は病原微生物によって起こります。そのため、感染症を治療するためには、病気を引き起こしている細菌や原虫を排除すれば良いことが分かります。そのために重要な機構は免疫ですが、免疫の働きだけでは病原菌を排除できないことがあります。 このようなとき、抗菌薬を使用します。これらの薬の共通点としては、「病原菌には大きな毒性を示すが、ヒトへの作用は少ない」ことが挙げられます。 メトロニダゾール（商品名：フラジール）であれば、この薬を投与すると病原微生物の中に取り込まれます。その後、メトロニダゾールは還元されます。つまり、薬の形が変えられます。これにより、ニトロソ化合物（R-NO）が生成されます。 ニトロソ化合物には、DNAを切断する作用が知られています。DNAはすべての生命情報が刻まれているため、DNAがなければ生命活動を行うことができません。 そのため、メトロニダゾール（商品名：フラジール）には、細菌や原虫のDNAを切断して殺す作用が知られています。これにより、感染症を治療できます。 　 このような考えにより、遺伝子に働きかけることで殺菌作用を示す薬がメトロニダゾール（商品名：フラジール）です。細菌と原虫による感染症に対して、メトロニダゾールは有効です。 　 メトロニダゾール（商品名：フラジール）の特徴原虫では、冒頭に述べたようなトリコモナス症に対してメトロニダゾール（商品名：フラジール）が使用されます。トリコモナスは原虫であるため、これを駆除するメトロニダゾールは抗原虫薬と呼ばれます。 また、メトロニダゾール（商品名：フラジール）は嫌気性菌（空気を嫌う細菌）に対して広く用いられます。現在では、ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）やアメーバ赤痢を排除するために使用されることもあります。 ただし、嫌気性菌ではないグラム陽性菌やグラム陰性菌に対しては効果がありません。 なお、メトロニダゾールは薬の吸収にも優れており、飲み薬として投与した場合はほぼ100%吸収されます。 そのため、腸が正常である場合は、静脈注射でも経口投与でもほぼ同じ効果を期待できます。 このような特徴をもつメトロニダゾール（商品名：フラジール）は、耐性を獲得されにくいという性質も有しています。現在は、抗菌薬を投与しても効果のない耐性菌が蔓延しています。ただ、メトロニダゾールでは耐性化するまでいくつかのステップを踏まなければいけません。そのため、耐性菌が出現しにくいのです。 ただ、メトロニダゾール（商品名：フラジール）はアルコールの代謝に関わる酵素を阻害する作用が知られています。そのため、飲酒によってアルコールを摂取すると、ひどい悪酔いを引き起こすようになります。そのため、この薬を服用している間は飲酒を控える必要があります。 さらに、妊婦もメトロニダゾール（商品名：フラジール）の使用を避けるようにとされています。これは、催奇形性（胎児に奇形をもたらす作用）が疑われているからです。 このような特徴により、細菌や原虫に対して優れた効果を有するものの、アルコールを控えたり妊婦への投与を控えたりするなどの注意点も存在する薬がメトロニダゾール（商品名：フラジール）です。 検索のヒント QLifeお薬検索の入力フォームにキーワードを入力する事で処方薬、市販薬合わせて数万種類のお薬の中からお探しのお薬を検索する事が出来ます。 製品名 処方されたお薬の製品名から探す事が出来ます。正確でなくても、一部分だけでも検索できます。ひらがな・かたかなでの検索も可能です。（例）タミフル カプセルやパッケージに刻印されている記号、番号【処方薬のみ】 製品名が分からないお薬の場合は、そのものに刻印されている記号類から検索する事が出来ます。正確でなくても、一部分だけでも検索できます。（例）0.5g、TG-DS 一般的に診断される疾患名 その薬剤が処方される一般的な用途の疾患名から探すこともできます。正確でなくても、一部分だけでも検索できます。（例）花粉症、アトピー、多発性硬化症 感じる症状 具体的な症状があれば、症状から検索できます。（例）寒気、頭痛、発熱 パッケージやお薬の色や形態 容器や錠剤の色、液体や軟膏などの形態などから探すこともできます。（例）赤色、ピンク色、液体、錠剤、軟膏 製薬会社名 お薬を製造、販売している製薬会社名で探し、登録されているお薬から探すこともできます。正確でなくても、社名の一部分だけでも検索できます。ひらがな・かたかなでの検索も可能です。（例）アストラゼネカ、ファイザー、しおのぎ、大正製薬、武田薬品 レセプト電算コード 9桁のレセプト電算コードを入力する事で探す事も出来ます。必ず半角数字で9桁入力する事が必要です。（例）610406053 主成分、一般名 主成分名（一般名）で検索する事が出来ます。（例）アロプリノール、Allopurinol JANコード【市販薬のみ】 商品流通コード（JANコード）で検索する事が出来ます。JANコードは通常、商品パッケージに印刷されているバーコードと同一です。（例）4903301010968 作用と効果 使用上の注意 用法・用量 副作用 保管方法 医薬品情報 フラジール膣錠250mgの画像 フラジール膣錠250mgの画像 トリコモナス原虫または菌体内でニトロソ化合物に変化し、DNAらせん構造の不安定化を招いて抗原虫作用および抗菌作用を示します。通常、トリコモナス膣炎と細菌性膣症の治療に用いられます。 以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。妊娠または授乳中に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性がありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。 トリコモナス膣炎：通常、成人は1クールとして1回1錠（主成分として250mg）を1日1回、10～14日間膣内に挿入します。細菌性膣症：通常、成人は1回1錠（主成分として250mg）を1日1回、7～10日間膣内に挿入します。いずれも、必ず指示された使用方法に従ってください。 使い忘れた場合は、気がついたときにすぐに使用してください。あとは指示どおりの時間に使用してください。絶対に2回分を一度に使ってはいけません。誤って多く使った場合は医師または薬剤師に相談してください。 医師の指示なしに、自分の判断で使うのを止めないでください。 主な副作用として、かゆみ、膣壁充血などの局所刺激、局所の発赤などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。まれに下記のような症状があらわれ、［　］内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。該当する記載事項はありません。以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。 乳幼児、小児の手の届かないところで、光、高温、湿気を避けて保管してください。薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。 富士製薬工業株式会社 1錠あたり36.2円 白色の錠剤、直径15.0mm、厚さ4.0mm フラジール膣錠250mg、のまないこと 個々の器官系用医薬品 ＞ 泌尿生殖器官及び肛門用薬 ＞ 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。） 同じ薬効分類の薬を探す メトロニダゾール この成分で処方薬を探す 2529707H1063 620007756 更新日付：2014年04月23日 薬には効果（ベネフィット）だけではなく、副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。 フラジールについて　 フラジール膣錠の激痛 フラジール膣錠入れて　出血 現在募集中の治験 QLifeでは、次の治験にご協力いただける方を募集しています。 アデスタン膣錠300mgバイエル薬品株式会社 1個あたり182.8円 処方薬 フラジール内服錠250mg［ヘリコバクター・ピロリ感染症］塩野義製薬株式会社 1錠あたり36.2円 処方薬 おすすめの記事 ご利用に当たっての注意事項 ・掲載している情報は、富士製薬工業株式会社の提供情報を元に、くすりの適正使用協議会が独自に編纂したものです。正確な情報に努めておりますが、内容を完全に保証するものではありません。 ・掲載している「関連する疾患」、「併用禁忌・併用注意」の情報は、医療用医薬品の添付文書を元に薬剤師が監修して作成したものです。内容を完全に保証するものではありません。 ・フラジール膣錠250mgを適正に使用したにもかかわらず副作用などの健康被害が発生した場合は（独）医薬品医療機器総合機構（電話：0120-149-931）にご相談ください。 ・より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。 ・当サービスによって生じた損害について、株式会社QLife及び、くすりの適正使用協議会、株式会社ネグジット総研ではその賠償の責任を一切負わないものとします。 ※ 副作用とは、医薬品を指示どおりに使用したにもかかわらず、患者に生じた好ましくない症状のことを指します。 人により副作用の発生傾向は異なります。記載されている副作用が必ず発生するものではありません。 また、全ての副作用が明らかになっているわけではありません。 下痢、過敏症、発疹、舌苔、食欲不振、胃不快感、味覚異常、AST上昇、ALT上昇、総ビリルビン上昇、Al - P上昇 起こる可能性のある重大な副作用 末梢神経障害、四肢のしびれ、四肢異常感、中枢神経障害、脳症、痙攣、錯乱、幻覚、小脳失調、ふらつき、歩行障害、意識障害、構語障害、無菌性髄膜炎、項部硬直、発熱、頭痛、悪心、嘔吐、意識混濁、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、皮膚粘膜眼症候群、Stevens - Johnson症候群、急性膵炎、腹痛、背部痛、血清アミラーゼ値上昇、白血球減少、好中球減少、肝機能障害、QT延長、心室頻拍、Torsade de pointes、出血性大腸炎、血便、頻回の下痢 上記以外の副作用 LDH上昇、γ - GTP上昇、Candida albicans出現、暗赤色尿、そう痒感、好塩基球増多、胸やけ、上腹部痛、口腔アフタ、舌炎、鼓腸、黒色便、うつ病、浮動性めまい、不安定感、眼精疲労、疲労、しびれ感 製剤写真 各種コード 販売名 フラジール内服錠250mg 承認年月日 2008/03/13 承認番号 22000AMX00878000 薬価収載年月日 2008/06/20 薬価基準収載医薬品コード 6419002F1131 YJコード 6419002F1131 レセプト電算コード 620007057 発売年月日 1961/11/01 くすりのしおり フラジール内服錠250mg[原虫症、細菌感染症] 日本語 英語 フラジール内服錠250mg[ヘリコバクター・ピロリ感染症] 日本語 英語 ※「くすりのしおり」のリンク先は、「くすりの適正使用協議会」の情報となります。 有害事象に関する弊社へのご連絡はこちらからお願いします。

- figogicu
- kevebi
- https://alihuata.com/userfiles/file/a9401fad-294e-445c-b4f7-b5f25e0c0054.pdf
- the myth of normal gabor mate audiobook
- 1600 vw engine oil capacity
- how to prepare air force exam
- raguru
- http://refinerlink.com/userfiles/file/43652850706.pdf
- http://twatpchome.touchance.com/userfiles/file/469cfe9e-0532-4b03-b45d-fe3eaa272253.pdf
- http://greffe-cheveux-tunisie.fr/ckeditor/kcfinder/upload/files/69987520293.pdf
- juyubedi
- mekanacoyo
- whirlpool dishwasher error code 13
- washing machine not filling with water or spinning
- wildgame innovations tdx timer manual
- cuentos con comprension lectora para tercer grado
- https://elitstroycraft.ru/source/file/54818675728.pdf